豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会　R７（２０２５）.1.7　　No.１６
豊岡市のホームページにもアップしています。
豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

まとめの学期　～　成果と課題の検証を～

★まとめの学期となりました。

第4次とよおか教育プランの成果と課題の検証をしていく中で、小中一貫教育の研修を深める視点から「各小中一貫ブロックで実施されていること」について、再確認しました。（以下掲載）

改めて、先生方の「学び続ける姿勢」に敬意を表します。

① 中学校区ブロックで行う公開授業研修の校区内小中学校への案内と参加
② 「授業づくり学級づくり研修会」において、校区の中学校の先生方の参加
③ 学年担当や教科担当の先生が一校一名である場合、校区内の小中学校での情報共有や交流

今、「教えから学びへ」という教育の原理の転換が求められています。「将来の変化を予測することが困難な時代」と言われる今、教育において「学び」の意味や可能性を問い直し、時代にふさわしく変えていく方策を練ることが大切となってきます。小中一貫教育を含めて、一人一人の子どもに関わる我々教員が、お互いの実践を積極的に「学び続けること」、今年度もぜひ大切にしたい姿勢だと思います。

☆トピックス１　～ 初任者研修 ～（豊岡市初任者研修会「振り返りシート」7 月実施より）

「親より長い時間をともに過ごす教員が、ただそばにいるだけの「寄り添う」でなく、成長の過程で悩み、葛藤する子どもたちが、自身の内面の変化に気づき、自身の存在や変化を肯定的に捉え、前向きに考えられるように、子どもとともに悩み、考え、ともに成長を喜べる教員でありたい。」

日頃、子どもたちに対して、肯定的な姿勢や態度で、一生懸命子どもたちの目線に寄り添おうとされている様子がひしひしと伝わってきます。子どもたちは、大人が思うほど経験や知識もありません。興味や関心をもつストライクゾーンも小さいです。そんな中でも、ストライクゾーンをしっかりつかんでいる先生は、「子どもの目線で寄り添っておられる先生」だと思います。子どもたち一人ひとりの心の状態をつかみ、常に子どもたちの状況把握に心くばりをしながら子どもたちに声をかけ、話をする等地道な積み重ねをされています。毎日、子どもたちの心の状態に絶えず関心を寄せ、親身に支えていくために悩みながら頑張っておられる先生方を応援する教育研修センターでありたいと思います。

☆トピックス２　「プロ野球選手が公認会計士になったお話。～あきらめない心の創り方～」

豊岡市教育委員会と包括連携協定を結んでいるロートこどもみらい財団（ロート製薬が 2021 年設立）は、不登校の子どもや居場所の少ない子どもたちも参加してもらうために、多様な学びの場を提供するプログラムを全国的に展開しています。会員になっている子どもに向けて 12 月に Web 配信されたプログラムを紹介します。

講師の奥村武博さんは、小さいころからプロ野球選手になることを夢見てきて、ドラフト6位で阪神タイガースのピッチャーとなりました。どうやったら自分らしいフォームで、良いボールを投げることができるのか。大人になって、プロ野球選手となっても、朝から晩までずっと考え、行動に移してきました。しかし、大きなケガをしてしまい、戦力外通告となって、プロ野球選手を引退しました。引退直後は、「自分は野球しかできない」という先入観に支配されたどん底の状態だったそうです。そこから、最も難しい国家資格の一つである公認会計士を目指します。肉体労働などのアルバイトをしながら勉強し9年かけて合格します。奥村さんがいう「あきらめない心を創る」ポイントの一つが、「失敗は行動した成果の一つに過ぎない」と考えることだそうです。その都度、成功した時のイメージトレーニングを何度も繰り返し乗り越えてきたそうです。「どうやったらあきらめないで続けていけるのか」、「心がおれてしまいそうなときにどのように考えると良いのか」など、今悩んでいる子どもたちの心に刺さる内容でした。

毎月、さまざまなプログラムが発信されていますので、子どもたちに紹介してください。